

熊本県立上天草高等学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標
「くまもとの教職員像」、「平成29年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「平成29年度体育保健課取組の方向」、「平成29年度人権教育取組の方向」等を中心に据え、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の実践をとおして、社会を構成する一員としての必要な人間力【智・徳・体】を身につけるために、思いやりの心（恕）を持ち克己精励する生徒の育成をめざす。

2 本年度の重点目標
1 学級経営 2 部活動経営 3 教科・学科経営 4 学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業第一主義（生徒の実態に応じたきめ細やかな授業展開） ・研究授業の積極的実践（相互授業参観等の実施） ・自学自習の習慣化及び読書指導（朝読書の充実）による基礎学力の定着 5 生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・マナーの徹底（正しい制服着用・頭髪、元気な明るい挨拶、正しい言葉遣い） ・部活動の活性化（部活動加入率アップ、計画的・継続的指導の充実） ・生徒会活動の活性化（自主・積極的活動の推進） 6 進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供及び面接及びガイダンス指導の充実 ・進学、就職説明資料提供並びに外部講師等による講演会や各種説明会等の機会拡充 ・インターンシップ、ボランティア活動等の体験活動への積極的参加 7 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育・安全教育的充実 ・校内職員研修会等の充実 ・学校評価の実施とその活用の充実 ・人権教育の視点に立った特別支援教育・適応指導の充実（組織的・継続的指導） ・体育大会、文化祭、上天草バザール等の学校行事の充実（地域や育友会との連携） ・広報活動の充実（HPの更新・広報誌・学校説明会等による情報発信の充実）

3 自己評価総括表							
大項目	評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(●)と課題(▲)
	小項目						
学校経営	人間力、恕、自律の育成	◇確かな学力の育成に基づくキャリア教育	○授業第一主義・分かる授業の実践 ○各部会・学年会・教科会による多方面からの学力充実 ○自学自習の習慣化	・生徒の習熟に応じたきめ細かな授業展開 ・ICT等の機器を活用した授業の実践 ・部会・学年会・教科会の定例実施と連携 ・適切な予習・復習指導 ・課題の計画的配付	B	●英語の授業において習熟度別授業を行い、生徒の実態に応じたきめ細かい指導ができた。 ●各学年にプロジェクター等ICT機器を準備し、積極的に活用できた。 ▲課題は適切に配付したが、取組みには差があった。	
		◇主体的に学び、学び合う人材育成	○部活動への加入者の増加と充実（加入率75%） ○ボランティア活動の充実（地域における月1回以上のボランティア活動と、ボランティア活動参加者60%）	・各学年で部活動加入を推奨する。 ・部活動の計画的・継続的指導の充実 ・部活動単位での地域ボランティア活動の実施 ・ボランティア活動参加への積極的呼びかけ	B	●各部活動において、計画的・継続的に活動ができていた。また、ボランティア活動にも部活動生・一般性が積極的に参加できた。 ●地域活性化や交流に根ざしたボランティアへの意欲的な参加ができた。 ▲部活動加入率も72%で、3年生引退後から部員数が減り、活動自体が低下するような部活があった。 ▲ボランティア参加生徒が徐々に固定化された様子が見られた。	
	学び合い高め合い支え合う職員集団	◇資質向上 ◇職員研修の実施	○専門性・教科指導力の向上 ○研究授業の積極的実践 ○職員研修の計画的実施と内容の充実。（各定期考査期間に1回以上、長期休業中に1回以上実施）	・校外研修会への積極的参加。 ・研究授業の積極的実践。 ・定期考査中、長期休業中を活用し、計画的に職員研修を実施する。 ・研修内容を精選し、喫緊なものも継続的に必要な研修を実施し、職員の資質向上を図る。	B	●STを活用した授業研究が複数教科で実施でき、従業改善への意識が高まった。また、教育センターへの研修や校外研修への参加が増え、教員相互の情報交換もできた。 ●職員研修は生徒理解や人権教育、不祥事関係の研修が充実していた。 ▲研究授業や公開授業への校外の方の参加推進を図りたい。	
学力向上	保護者（育友会）との連携・協力	◇育友会活動の活性化	○総会や学校行事等への参加者を増やすとともに、育友会活動を活性化させる。（育友会総会出席率85%以上）	・育友会総会をはじめ、学校行事への参加促進 ・育友会新聞作成・校外補導等への協力 ・地域行事への育友会の参加促進	B	●天草地区公立高等学校PTA指導者研究大会の会場校として大会を成功させた。 ●文化祭・長距離走大会の育友会バザーで多くの保護者の参加があった。 ▲育友会総会の参加者が74%で昨年より減少した。来年度は工夫が必要である。	
	研究授業、授業公開	◇研究授業、授業公開	○研究授業の分析や授業公開におけるアンケートを通じて、指導力の向上を目指す。	・公開授業週間、研究授業の積極的な活用（各教科年1回以上の研究授業と反省会の実施）	B	●1学期に公開授業、2学期に研究授業を実施した。他教科の授業も積極的に見学され、互いの指導力向上につながった。	
	授業の充実、分かる授業	◇指導力の向上 ◇授業評価と授業改善	○生徒による授業評価の結果分析等により、生徒の学習意欲を高める授業の実施を目指す（生徒アンケートにおける肯定的評価70%以上）	・生徒による授業評価 ・個別指導等による生徒に実態の把握 ・スーパーティーチャーの積極的活用	B	●3学期に授業評価を行い、73%の肯定的評価があり、先生方の熱意や工夫を感じている生徒が多かった。 ●英語科、数学科、情報会計科においてスーパーティーチャーを活用した研究授業を行い、指導力向上について研究協議ができた。	
基礎学力と学習習慣	◇家庭学習時間の増加	○家庭学習の習慣化を図り、併せて家庭学習時間の増加を目指す。（1日の平均学習時間60分以上）	・家庭学習時間調査による生徒の実態把握 ・ホームルーム等での周知と啓発	C	▲定期考査前に家庭学習時間調査を実施した。考査前の調査では1日平均約100分であるが、平日はまだ少ない。学習習慣の定着が不十分であった。		

	読書習慣の育成を通して、豊かな教養と人間性の涵養に努める。	◇図書館を活用した人材育成 ◇情報リテラシーの向上	○図書館利用者数を増やす。 (1日の平均来館者数20名以上) ○朝読書の徹底 ○授業における図書館の活用(各授業で積極的に図書館内の資料・情報を活用する)	・積極的に広報活動を行う。(図書便り、文化祭、図書館でのイベント) ・生徒のリクエスト等による新刊の積極的入荷を図る。 ・教科の学習内容と連携するなど、展示を工夫する。	B	●定期的に広報活動を行ったり、イベントを行ったことで、生徒一人あたりの貸出冊数の増加(1,9冊)につながった。 ●前年度の反省を生かし購入図書の精選を行った結果、多くのリクエストに応えることができた。 ●職員朝会が週の最初だけになったため、朝読書をスムーズにスタートすることができるようになった。 ▲調べ学習などで利用される際、事前の打ち合わせがなく、図書館の資料準備が間に合わないことがあった。
キャリア教育(進路指導)	系統的キャリア教育	◇進路検討会の実施	○生徒一人一人の希望や適性にあった職業検討を行う。 ○生徒のニーズにあった大学等進学先の検討を行う。 ○3年生全員の進路目標決定を目指す。	・インターンシップや企業見学、進路別講演会、マナーアップ講座、スキルアップ講座等の実施 ・オープンキャンパスへの参加や大学出張講座の実施	A	●インターンシップや進路出張講座(企業十上級学校)から企業見学、就職ガイダンスの流れが機能し、生徒の意識向上につなげることができた。 ●3年次の模擬面接会や職場見学の取組みなどで生徒の資質向上が見られた。
		◇3年間の系統的指導	○模擬試験等を活用した継続的指導を行う。 ○生徒の状況を把握 ○課外授業の工夫や面談を実施	・コース別・習熟度別課外を実施 ・担任が家庭訪問・個人面談を実施 ・学習習慣や学力定着を把握するための模擬試験の実施	B	●模擬試験の結果を学習指導につなげられ、3年次には学力の向上がみられた。 ●課外授業を系統的に実施し、入学時偏差値から大幅な改善が見られ、3年次の高い進路実現につながっている。
	進路意識の向上	◇学年に応じた進路指導	○模試のデータや進路検討会を活用し、3年間を見通した進路指導を行う。	・各学年で進路検討会 ・模試データを全職員で共有	B	●模試検討会を定期的に実施し、模試の結果を職員間で共有することができ、個別指導に生かすことができた。
		◇面談による指導	○研修会を実施し、進路指導の実践力を向上させる。	・キャリアサポーターによる個人面談の実施	B	▲キャリアサポーターが週2日の勤務となり、面談や研修など行う十分な時間が確保できなかった。
生徒指導	生徒の規範意識	◇基本的な生活習慣の確立と社会人の基礎となる整容指導	○8回の服装・頭髪検査中、1回でも不合格者を0にする。	・事前告知と、整備の促進 ・社会人となる前に身につけるべき資質を理解させる。	B	●事前告知をすることで不合格者を減少することができた。 ▲不合格者0に向け、全職員で取り組んでいきたい。
		◇各種法令・法規に基づいた指導の徹底	○特別指導、いじめ、交通事故・違反、貴重品の盗難等の件数を前年度より減らす。	・法令順守の重要性と違反等が何故いけないかを集会時等で繰り返し諭す。 ・毎月第1週目「昼休み巡回週間」	B	●特別指導の件数・朝掃除対象者の件数が減少傾向にあり、規範意識の定着がはかれた。また、スタントマンを利用した交通講話を実施することができ意識の高揚がはかれた。 ▲交通マナー(特にバス通学生)における指導の徹底が図れなかった。
	生徒会活動の充実	◇自発的な生徒会執行部の活動	○生徒会主催行事等において生徒が自発的にアイデアを出し企画・運営を行う。	・計画的な準備と準備作業時の教師側の積極的な関わり。	B	●各学校行事において、自発的に計画・準備を行い、協力してスムーズな運営ができた。 ▲文化祭において、生徒全員で行う取組ができなかった。
人権教育の推進	同和問題を中心とした様々な人権問題の理解	◇同和問題学習LHR ◇様々な人権問題学習 ◇差別を見抜き、差別を許さない人間の育成	○各学年単位で同和問題に関する認識を深める ○学年ごとに、「水俣病をめぐる人権」、「ハンセン病回復者の人権」について理解を深める。 ○生徒アンケートで肯定的評価	・LHR指導案について人権教育推進委員会で内容を検討し、各学年単位で学習指導案を作成する。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料や県の事業、自治体作成資料を利用する。 ・人権教育推進委員会が研修計画を作成する。	B	●各学期の人権教育LHRでは、より良い指導ができるように、指導案を人権教育推進委員会で検討してLHRを実施することができた。 ▲県や自治体作成の資料をもっと有効的に活用できるように工夫する。生徒の肯定的評価は78%に止まり、さらに工夫が必要と感じた。
	職員の人権感覚の醸成	◇職員研修を通して知識を理解するとともに人権感覚を養う。	○身近に起こっている人権問題についての研修を実施する。 ○校外研修へ積極的に参加する。	・同和問題を中心に据えた職員研修の実施 ・校外研修への積極的参加を促す。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料の積極活用 ・関係法令・施策等の理解、当事者に学ぶ研修等を通して、基本的認識の深化や実践的指導力の向上	B	●校内職員研修を実施し、特に「部落差別解消推進法」の周知を行った。 ●人権教育推進委員会を中心に校外研修に計画的に参加し、様々な人権問題に関して学習することができた。 ▲研修で学んだことをどのようにして実践的な指導につなげていくかが課題である。
	命を大切にすることを心がけようとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学ぶとともに、夢や目標をもち、その実現に向けて努力する態度の育成。	○すべての教員が学習活動ととし「命を大切にしよう」を育む指導を行う。 ○行事等に、生徒が自尊感情を高め、自己実現を図るための在り方、生き方について学ぶ視点を入れる。 ○交通講話(スタントマンを活用)を通して命の尊さ、大切さを学ぶ。	・教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通した指導を行う。 ・福祉実習やボランティア活動、地域貢献活動等を通して、生命、自然、地域に対する畏敬の念を高める。 ・警察と連携し、実技講習会を行うことにより、生徒の交通安全意識、命の大切さの高揚を図る。	A	●各種講演会や講話、LHR等の計画的かつ効果的な実施により、生徒・職員ともに意識の高揚がはかれた。来年度も継続して実施していきたい。	
いじめの防止	いじめの早期発見、相談体制	◇職員の危機管理意識の高揚	○生徒の変化に敏感になる。	・いじめ問題対策委員会年3回開催 ・いじめ防止対策の職員研修の実施	A	●いじめ防止対策委員会に外部講師を招き御意見をいただき資質向上につなげることができた。 ▲いじめの状況把握に努めているが、いつ、どこで、いじめにつながるきっかけが起こるかわからないという危機感を持ち、いじめの兆候を見逃さないよう努めていきたい。
	いじめをなくす取組	◇いじめ防止関連の各種行事等の実施	○行事等を通して、いじめ防止の認識を深める。	・いじめ防止全校集会の実施 ・『怒』のこころウィークの実施 ・「心のアンケート」年3回の実施	A	●全校集会やLHR、生徒会(標語)、美術(ポスター)など生徒に呼びかけ意識向上につなげることができた。 ▲「心のアンケート」以外でいじめを認知する事案が1件発覚した。今後は更にいじめ防止の対策に努めていきたい。

保健安全	保健教育の充実	◇保健指導	○健康教育の充実を図る。 ○健康診断実施後の治療率の向上を図る。	・生徒を対象とした性教育講演会、薬物乱用防止、献血セミナーの実施 ・AED、心電蘇生法についての職員研修の実施 ・治療勧告書の発行 ・未受診の生徒の個別指導の徹底	B	●健康教育について、本校の課題に沿ったテーマや内容となるよう計画し、講師と打合わせを行い、実施することができた。 ▲治療勧告書を複数回発行し啓発を行うが、なかなか医療機関へ繋ぐことができず、治療率は昨年度並みにとどまった。
		◇心身の健康問題を抱える生徒への支援	○組織的な支援の取組	・保健室来室状況の記録分析 ・スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当との生徒情報の共有 ・外部の専門機関との連携	A	●今年度、心的要因を背景に保健室を利用した生徒数は、例年並みである。多様な特性をもつ生徒に対し、関係者と情報を共有することで個別に必要な専門機関等に繋ぐことができています。
	環境教育	◇美化週間の取組	○学期に1回実施	・環境委員会が主体となり生徒主導型での実施	A	●毎学期に環境委員で各教室の整備状況について美化点検を行い、環境美化に対する意識を高めるよう取り組むことができた。
		◇学校環境ISOの取組	○地域清掃活動の実施 ○安全・安心な環境整備 ○節電に向けた取組	・毎月地域清掃活動実施 ・毎学期安全点検を実施 ・環境委員による呼びかけの実施	B	●清掃ボランティア等の地域清掃活動を実施することができた。 ▲節電に向けた取組として環境委員による呼びかけを行い、冷房使用時は概ね良好であったが、暖房時は意識が低くなってしまった。
危機管理体制	◇職員の危機対応能力の向上	○具体的な事例を基にした職員研修や事例紹介等により、常に危機管理に対する意識を持たせる。	・予防を視点にした危機管理マニュアルの整備 ・事件、事故、不祥事の事例は、その都度全職員に紹介する。	B	●地震の避難訓練や危機管理の研修も充実したものであった。 ▲危機管理マニュアルの見直しは、関係諸機関の意見を反映する。 ▲教職員の交通事故等が数件あり、ゼロにするよう日頃から注意喚起する。	
	◇自然災害に対する対策の確立	○避難場所や避難経路、生徒の引き渡し方法等を、生徒・保護者に周知する。	・自然災害を想定した避難訓練 ・保護者向けマチコミメールの定着 ・学校ホームページの活用	B	●7月に津波避難場所への避難訓練を全校で実施した。 ●10月に地震・火災を想定した防災避難訓練を実施した。 ●上天草高校防災マニュアルを作成。 ●豪雨・台風対応に伴う保護者向けメールを配信した。 ▲地域社会と連携した防災訓練を実施する。	
特別支援教育	生徒理解の充実	◇生徒一人一人の教育的ニーズを把握した支援体制の整備	○年間3回以上生徒理解研修を実施し共通理解を図る。 ○個別の指導計画を学期毎に検討・更新する。	・担任以外に、授業担当者等で、気になる生徒の情報を収集する。 ・特別支援教育・教育相談委員会を学期毎に実施する。 ・SCによる相談活動の推進	A	●年度当初から気になる生徒についての情報を提供し、職員間の共通理解を図ることができた。 ●学期毎に生徒理解研修を実施し、個別の諸計画の作成や評価を実施できた。 ●気になる生徒についての情報を授業担当者から収集し、その後の個別支援に活用することができた。 ▲個別の諸計画を効率よく活用する。
	外部との連携	◇連携を通して個々の生徒の課題の早期把握・対応	○小・中学校や地域の高校、支援学校と随時情報交換を行う。 ○関係機関にいつでも相談できる体制づくり。	・地域の研修や情報交換の場に積極的に参加 ・関係中学校訪問（入学前）を実施 ・関係機関の専門家に特別支援教育・教育相談委員会への参加を依頼	B	●地域のコーディネーター会議に参加し、小中学校や高校間の情報交換を行い、個別支援に活用することができた。 ●入学前に関係中学校訪問を実施し、気になる生徒の情報をまとめる、職員間の共通理解を図ることができた。 ▲関係機関に相談できる体制は整ったが、特別支援教育・教育相談委員会には専門家を招聘できなかった。
地域連携（コミュニティ・スクール）	地域との連携・協力	◇地域や小・中学校との連携の強化と情報の共有	○地域や中学校への情報提供と交流に努め、本校教育への理解と協力を得る。 (保護者アンケートによる肯定的評価80%以上)	・小中学校との交流（合同部活動・職員間交流等）を実施 ・ホームページの充実 ・中学校に本校用の広報掲示板の設置 ・地域連携対策事業（学校運営協議会）の実施	A	●サッカー部で通年で小学生への指導や中学校との合同練習などの交流が実現した。 ●中学校に本校用掲示板を設置した。 ●学校運営協議会のアイデアが実現され、地域との交流が活発になった。 ▲CS行事や取組が放課後や土日に実施されることが多く、生徒への負担が大きくなりつつある。今後は教育課程の中に時間を設けるなど、システムの構築が必要である。

4 学校関係者評価
平成30年2月15日に開催
①本年度の本校の取組に関してはAの評価が一つ減ったが、概ね肯定的な評価をいただいた。ただ、Cの評価があることに家庭学習は、小・中学校からの習慣性があるので、保護者にも協力してもらわないと課題を出すだけでは解決しない。保護者にも家庭学習の重要性について説明する機会を持つことが必要である。
②将来に対する生徒の夢や目標を持っている値が例年より高く評価したい。早くから夢や希望を持つことは学習意欲へとつながるもので、とても大切なことである。特に専門学科の生徒には資格取得が一つの大きな目標となる。
③昨年課題として、「本校の魅力を知らせるために、進路状況や部活動、情報会計科・福祉科等の活動の成果をもっとPRしてほしい。」という意見が出ていたが、今年度はコミュニティ・スクールの活動も盛んで努力の成果が出ていると感じる。特に近隣中学校への看板設置は評価したい。
④育友会総会の出席率がとても高く評価できる。学校の活性化のためには保護者の協力が不可欠で、その意識付けをするのはやはり入学式から必要と感じる。上天草高校の今後には地域・そして保護者の広い理解と深い愛情がなければならない。
5 総合評価
総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成された。
①授業の充実・「わかる授業」の工夫・改善がBの評価としてはポイントが低い。資質向上のための校外研修会への参加等も増加したが、それが授業に反映されていない。Cも「家庭学習の充実・時間の増加」を目標としており、調査前の学習時間調査は実施されるが、その報告で終わり、反省と見直しがされていないのは課題である。
②学習活動については、週末課題や日々の課題等に取り組み、生徒一人一人に丁寧な個別支援を行っている。

- ③生徒指導に関しては、大きな問題もなく、いじめもほとんどない。生徒は落ち着いた学校生活を過ごしており、転退学者も少ない。生徒たちに「怒のこころ」「命の大切さ」など内面の成長が感じられ、規範意識の醸成が図られている。
- ④進路指導については、就職・進学ともほぼ生徒の希望に沿った結果となり、就職率は昨年に引き続き100%であった。特に進学については、熊大の一般入試での合格は素晴らしく、国公立の合格者も増加している。進路部と3年部を中心とした全職員の組織としての取組の結果、一人一人の進路希望が叶えられていると考えられる。
- ⑤部活動ではウェイトリフティング部が九州・全国大会にも出場している。また、野球部や女子バレー部・陸上部も着実に力をつけており、来年度は楽しみな部活動が多い。少人数でも活力ある部活動になるよう取り組みたい。
- ⑥全ての教育活動に生徒会を中心とした、生徒一人一人の頑張りが感じられ、昨年より一歩前進する工夫・改善に努めている。
- ⑦特別支援教育における個別の指導計画・支援計画はスモールステップを続け、校外からも評価が高く、コーディネーターと職員(担任、教科担当等)の連携が図られ、SCの活用も的確に実施されている。

6 次年度への課題・改善方策

以下の点について改善を進めていく。

- ①「学力向上」と「指導力向上」である。入学してきた生徒たちを最後まで進路保障することが高等学校の最大の務めである。それを実現するためには学力は欠かすことができない。今の生徒の実力からどれだけ向上させるかが教師の責務と考える。宅習時間を含め学習に対する意欲が不足している中、貪欲に学習することが臨まれる。そのためにも、教師の指導力向上が不可欠と考える。
- ②相互公開授業や研究授業も実施されているが、その後の検討会までは十分と言えない。それがなければ反省もなく、改善も期待できない。来年度はスーパーティーチャーの活用を今年度より増やし、実際の授業の改善に努めることが大切である。
- ③授業改善の点から、ICT機器のさらなる整備を図り、タブレットを活用し、分かりやすく、積極的に取り組む授業の展開を期待する。
- ④育友会主催行事への保護者の積極的参加のための工夫として、早期の周知に努めるとともに、周知方法の検討を行う。また、総会だけでなく、各学年単位の保護者会も実施し、連携を密にしたい。
- ⑤学校運営協議会を来年度も実施する予定なので、2年目として今年度以上の学校活性化について検討を重ね、生徒たちが主体的に活動できる内容を考える。それを地域や社会に知っていただくための広報活動もさらに充実させ、入学者増加につなげていきたいと考える。
- ⑥職員が毎日元気に職務に専念することが大切であり、学校の活性にもつながる。そのためにも従事時間の管理表等を活用し、過度の残業やストレスがないかなど、メンタルヘルスに日頃から注意を促す。また、職員の交通事故や飲酒運転、体罰等の不祥事防止に向け、職員朝会や研修を利用した取組を計画的に実施する。